

「つけっぱなしはもったいない」

北区の大宮保育所「おひさま発電所」完成



太陽光発電で点灯したライト(手前)を見守る子どもたち。北区の大宮保育所で。

北区の大宮保育所(園児約75人)で14日、太陽光発電システム「おひさま発電所」の完成を記念し、点灯式が行われた。保育所で使用する電力の

約7割、年間の電気料金を換算して約20万円に相当する量を発電できるという。NPO法人「きょうとグリーンファンド」(下

京区、板倉豊理事長)の事業で、今回は8施設目。01年から始め、保育所など設置施設での環境教育実践と併せて進められている。

同ファンド運営の「おひさま基金」と新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の補助金、奉仕団体や保護者からの寄付金などで設置費用約950万円を準備した。

この日の式では、北尾育子所長が「美しい地球環境を残すため、小さな事でも少しずつ積み重ねていきたい」とあいさつ。出席者の前で鏡餅型のライトがともされた。式典

の途中で子どもたちから「つけっぱなしはもったいない」と声が上がリライトが消されるなど、さ

っそく環境教育の成果が表れる場面もあった。同ファンドの大西啓子事務局長は「保護者や地

域住民らの環境意識の改革にもつながってほしい」と話していた。

【中野彩子】